

山腹という劇的な位置に存在する西念寺は、この仏寺の建立に大変な努力が払われたことを示唆しています。かつては目立つことのなかった土地には元々、禪の聖域がありましたが、この聖域は 1561 年までには使われなくなりました。この年に、石見銀山やその周辺一帯を当時支配していた毛利氏が、浄土仏教を信奉する集団にこの区画を贈与したのでした。然休という僧侶を中心に、この信徒たちは、岩の掘削作業に出向いた毛利氏の助けを借りて、敷地を十分に拡張できるまで山の大きな岩塊を繰り返し取り除きました。時間のかかるこの計画の一環として、温泉津から、毛利氏が主に銀の輸送に用いていた沖泊港までの道を整備する作業も行われました。保護を必要とする旅行者の避難所であったことも知られている西念寺のすぐ前にも、この道が通りました。現在もこの道は歩くことができますが、わずかに場所が移動しており、1879 年に再建された本堂に面した寺の閉じた門の裏手にあります。本堂裏の山腹にある墓地ははるかに古く、最古の墓石は 17 世紀前半のものです。